

あぶら通信

第36号 2014年12月 あぶらむの会発行
〒509-4121 岐阜県高山市国府町宇津江3225-1
TEL 0577-72-4219 FAX 0577-72-4494
E-mail : abram@hidatakayama.ne.jp



ペルーの土人形をモチーフに
絵：アヤコ・フクダ



「あぶらむ通信の原稿準備です。エッ、もう一年が経ったの」、溜息の出る定番のセリフとなりました。あっという間の一年間でした。特別何をやったという訳ではないのですが…。あぶらむ通信お手の皆様には、この一年も恵みの内にお元気でお過ごしのことと思います。

この一年も『変』とつくことが多い年でした。8月は雨ばかりで暑さのない夏、去年は4回もハチに刺されたというのに、今年はほとんどハチを見ないという年。マイマイガの異常発生で新芽が食べられてしまった結果、秋になって木の実が出来ず、山は食料不足となり人里は熊の異常出没。丹生川村ではついに死者まで出るという始末です。どこかで大きな自然の歯車のかみ合わせの違いを感じる「変」な年でした。

二つのケータイ電話

1996年以來13回続いてきた「子どもから大人までのネパールの旅」、その最後に訪れる村ガンドルン(1,940m)、そしてその眼前に広がるヒマラヤの山々。アンナプルナ・サウス(7,219m)ヒンチュリ(6,441m)そしてヒマラヤの神々が住む聖なる山マチャプチャレ(6,997m登山禁止)、その山々のむこうにどんな世界(風景)が広がっているのかずーっと憧れ続けてきた。しかし、片道6日間往復10日間の辛く厳しい山歩きと聞くと自分には力及ばずと諦めてきた。

昨年9月、都会の風に吹かれながらアルピニストの青田浩さんと恵比寿でビールを飲んだ。彼は1981年、イエティー同人会のメンバーとしてアンナプルナ主峰(8,091m)南壁を登った伝説の人である。「私が案内しますよ」の一言でこの秋行くことになった。

目的地はアンナプルナ・ベース・キャンプ(ABC4,130m)、時代が進み変わっても往復10日間の山歩きは変わらなかった。

私とネパールとの関わりは1979年に始まった。故岩村昇ドクターとの出会いだった。立教大学礼拝堂付き牧師として働いていた私。ドクターに講演のお願いをした。あっさり承諾して下さったドクター、しかし講演料はわずか3万円。申し訳ない気持ちで一杯だった私にドクターからチトワン農業総合開発計画プロジェクトの提案。実現には数千万円の資金を必要とした。「大郷さん、夢を見なければ本物の牧師になれませんヨ」と強烈先制パンチ、エビで鯛を絵にかいたような結果となった。以来ネパールを訪ねること30回を超えた。

北は中国、南はインドに挟まれた山国ネパール、東西850km南北は広いところで240km狭いところでは150kmという小国である。世界最高峰エベレスト(ネパール名サガルマータ8,848m)がある国ということは誰でも知っているが、インド国境近く我々が訪れるチトワン国立公園が海拔80mであることを知る人は少ない。南北150kmの間に8,700m余の高低差がある国、南北に一日歩けば気候が3つほど変わる国、それがネパールです。山への交通手段はロバと人力、海拔3千米からは人力のみである。こんなに厳しい地形環境、私はこの国は変わり様がないと思っていた。事実この30数年、山岳地帯の人々の生活はほとんど変わってなかった。

ところが昨年3月に行った時は気づかなかったが、ほとんどの人が“ケータイ電話”を所持していた。一度山に入ってしまうと電話連絡は困難だったが、今や4千米の高地で日本

にも繋がるは、わずかな日給で玉の汗を流しながら重い荷物を運ぶポーター達も“ケイタイ”を持ち自由に通話しあっていた。おかげで私たちもそのケイタイの恩恵にあずかり次の宿の予約を早めにとることが出来、生命線である部屋を確保することができた。その背景には4千米の高地まで不十分ながらもそれなりに安定した電力の供給があった。

この電力の供給とケイタイの普及が変わり様がないと思っていたこの自然条件厳しい国を確実に変えているように思った。果たしてどのように、どのような方向に向かって変わって行くのか、期待と一抹の不安と入り混じった複雑な気持ちで見えていた私だった。



ヒマラヤの山の人たちの生活を変えつつあるケイタイ電話。よい方に変わっていってくれればいいのだが…。

もう一つのケイタイ電話

4月24日、18人目の家裁少年を迎えた。「二度の少年院生活でダメだったものを、また同じ場所に送致してもだめ。全く別の新しい環境と方法で」という裁判官のよく判るようなわからないような判断で、あぶらむへの補導委託となった。10月で20歳になるという少年青年、周りの目がある時はそれなりに、目がない時は田の畦で堂々と昼寝、権利主張だけはしっかりしていた。

7月13日夕方、突然見知らぬ人物から電話が入った。「少年がケイタイ電話を所持し、外部と連絡を取り合い、夜中遊びまわっている」という内容だった。その人物は少年の身近な関係者であり、少年の更生を心から願う人だった。「あぶらむでよくしてもらっていると聞く、なのにその気持ちを裏切るような行為は許せない。今、ここでしっかりと自分と向き合い、立ち直らなければならない時だというのに…」、その人物の声は真剣だった。“密告”というかたちといい、少年の裏の顔といい、私たちにとっては大きな衝撃だった。

家裁少年との基本は「信頼」でしかない。親からの差し入れ等少年院では「検査」があるが、ここではそんなことがあってはならないと思う。しかし、それを逆手に取れば何でもやりたい放題となる、それが今回の件だった。家庭裁判所の調査官と相談をして母親への事実確認となった。事がバレたら大変なことになると思った母親はケイタイの回収に走った。しかし、少年にとってはケイタイは命、どうしても手放さないと聞いたという。そこで使いを出して少年を説得、深夜1時そのいきさつを伝える電話が又、私のところに入った。「私が話してきた事がウソだと思うならば、今すぐ少年の部屋を見てもみればいい。もぬけの殻ですよ…」と。深夜、私たちが寝静まったころ窓から忍び足で出ていく少年の姿を想像するだけでもいやだった。今さら確認するまでもないと思ったが、私の足は少年の部屋に向かっていった。やはり少年はいなかった。

私は少年と向かいあった。一連のことを認めもう一度というなら仕切り直そうと思っていた。だが少年の口から出てきた言葉は「根も葉もないこと、証拠を見せろ。ポケが少し入っ

てきてるんじゃない…」等々の言葉だった。証拠はお前の胸の中にある、ここでやり直さなければこれから先どうするのかと論じた私だったが、少年には届かなかった。「証拠を見せる、証拠もないのに…」しかし目はうつろだった。

私は少年を切ることにした。こちら側から補導委託を中止して、少年を裁判所へ返すことにした。18人目にして初めてのことである。いかなることがあってもこちら側から少年を切ることがあってはならないを信条にしてきていたが、この少年を前にして私のその気持ちは折れてしまった。いや折れたというよりも、切るというかたちでしか自分の本当の気持ちを表現することができなかった。「君はもうすぐ20歳。今のお前で世間に通じると思うならどうぞやってみな」という気持ち、不自然に彼を受け容れる方が彼の気づき、成長にさまたげになると思った。「全てのこと、やがて自分に還ってくる」、そんな心境だった。

家裁少年を預り共に半年間生活を共にする補導委託という仕事の難しさ、奥深さを改めて教えられた一件だった。

ネパールにしても我国ニッポンにしても、“ケータイ社会”はこれからどんな社会を創り出して行くのだろうか。もっと心して文明の利器を使わなければならないことを教えられた。

それにしてもネパールの山歩きで日本人を見るのは数えるほどだ、それも中高年者ばかり。80～90年代中ごろまでは日本人ばかりだったというのに。圧倒的多数の中国人、韓国人、そして日本人よりも多かったマレーシア人。今の国の活力がそのまま山歩き人口に表れていた。どうすれば活力が出るのだろうか、私たちの国に。そんなことを考えながらの山歩きだった。

あぶらむあれこれ

「あぶらむ里山生活学校」を前提として、新しく「ものづくり作業棟」建設に着手しました。消費税8%になる前にと、3月に棟上げを終えました。飛騨の冬は深く厳しく、外仕事はできません。冬の間到大工さん達は材料のきざみ仕事、雪解けを待って一気に組み上げるのです。建築会社をお願いするのは建物の骨組みだけ、内外壁や床はりそして建具づくり等はあぶらむの仕事です。あぶらむの建物の多くはこうしたやり方で進められています。いわば「半手造り」です。この夏は暑さ知らずで雨の多い日々でした。広島に大きな土砂災害をもたらした豪雨は飛騨地方にもそれなりの災害をもたらしました。あぶらむでは新築した作業棟の1m近くまで土砂崩れがおこり、危機一髪でした。自力復旧を決めたものの、その作業は大仕事。山を切り崩し埋めもどした土砂だけで約500トン近く、私は“ボクシ”ならぬ“ドボクシ”となってしまいました。しかしこれらの作業を通して学んだことは大でした。何事も仕事に吞まれてはダメ。初めての作業はとにかく仕事に吞まれがちですが、そこで手をあげてしまっただけは何も始まりません。



新築となった「ものづくり作業棟」。大工さんの仕事は骨組みだけ。内外壁はり、建具、床はり等はあぶらむの仕事です。

はじめてのことに立ち向かって行くことの中で、いろいろとあれこれ知恵が出てくるものなのです。死んだ親父がよくいました。「男なら甲斐性(かいしょ)出せ!」。そう甲斐性出さしかないので。そう、今の日本に必要なのはコンピューターなどにたよりっぱなしになるのではなく、「甲斐性」を出してものごとにあたることなのです。あぶらむが計画している「里山生活学校」も、知恵とこの「カイショウ」を育てることなのです。来る年はどのような年となるのか、少々楽しみです。



8月の大雨で崩れた敷地。自力で復旧することにした。

それではどうぞよいクリスマスを、そしてよい新年をお迎え下さい。

2014年12月

あぶらむの会 代表 大郷 博



今年も異常発生したマイマイガ。朴葉が食い尽くされて枯木のようになった。栗やドングリも大不作、里への熊の大出現となった。

高山市からのお知らせ

クマから身を守るために!

◻ 市民の方がクマに襲われる事故が多発しています。(11月20日現在で4件発生し、1名の方がお亡くなりになり、4名の方が爪で引っかかれたり噛みつかれたりして、2~3ヶ月の重傷を負われています)

◻ 突進のクマは驚いても冬眠しない可能性があります。

◻ 山すそや河川の茂みなど見通しの悪い場所には絶対に近寄らないでください。

市内で発生した人身被害の事例

- ・ 9月27日午後8時半頃、家の前で用事をしていました。家は河川の近くでやぶが生い茂り見通しが悪かったため、突然クマがやぶから現れ、襲いかかってきました。
- ・ 11月12日午前11時頃、家の近くにある山すその柿を収穫するために、音を鳴らして夫婦2人で行き、収穫していたところ、背後のススキから突然クマが現れ、襲いかかってきました。
- ・ 11月20日午後3時頃、城山公園につづく山中の道をひとりで散歩していました。すると、笹やぶにクマがいる気配がしたので、本陰に隠れようとした所、突然クマがやぶから現れ、襲いかかってきました。


クマのいそうな場所には近づかない

- △ クマの目撃情報があった場所には看板を設置しているので近づかないでください。
- △ 早朝や夜間のひとりでの外出は控えてください。
- △ 自分自身は安全だと思っている行動が危険です。



クマを近づけない

- △ 柿の実などはクマを呼び寄せるため、鳥食周辺のゴミは早急に回収してください。
- △ 人間離れした場所にある柿の実などは無理に回収しないでください。
- △ 養蚕の生ごみもクマのエサになるので、授業日の朝にごみステーションへ持ち込んでください。
- △ 不要な野草や果実を田畑に放棄しないでください。



こんなビラが配られるほど今年が熊の当たり年でした。

アルピニスト青田浩さんと行く ヒマラヤトレッキングの旅に参加して

川上 美砂

いよいよ出発の日。羽田空港に向かう私は、背中のリュックよりも大きなドキドキと不安でいっぱいだった。「子どもから大人までのネパールの旅」でガンドルンから見た山頂の輝く白さをもう一度見たい、「この旅にチャレンジすることで自分の後半の人生を歩く勇気を得たい」と、山経験なし、主婦歴28年の私はヒマラヤトレッキングの申し込みを決めた。それから2ヶ月間、あたふたと3つの準備をした。

①体力作りのために、朝1時間早く家を出て職場までの5キロを歩き、週1回近くの高尾山に登った。②勤務先に休暇をお願いし、迷惑をかけないように前もって仕事をやりくりした。③夫と子どもに参加したい気持ちを伝えて、留守中困らないよう少しずつ家の中を整理し、子どもたちに家事のコツを教えた。娘は「最初は反対だったけれど、本気でチャレンジしたいんだとわかったよ。気をつけて行ってきてね」と言い、次男は「僕たちのことは心配しないで楽しんできて」と送り出してくれた。「絶対にムリしないで。そしてもし母さんに万が一のことがあっても、僕たちなんとかやっていくからね」という末っ子の言葉に胸が熱くなった。

カトマンズ、ポカラを経て、ナヤプールから歩き始める。石段、桜の咲く山道、乾いた土の上をひたすら歩き、吊り橋を渡り、時には荷物を運ぶ馬や放牧中の山羊の群れとすれ違う。陽の当たる坂道では汗ばむ暑さに上着を脱ぎ、日陰ではダウンを着込んだ。夜はゲスト

ハウスで寝袋生活だったが、太陽光発電の普及もあって暗いながらも電気が灯り充電もできた。厨房は質素だったが、宿の人の笑顔と温かい食事、ミルクティーがありがたかった。急な斜面で豆や粟を耕作している村の生活や、幼い子どもたちの瞳は12年前と変わらないように見えたが、スマホを手を持つ若者が何人もいて驚か



山岳地帯に住む人々の生活を見ながらのトレッキング。二ヶ月余の訓練で歩き切った筆者。



たった一本の道をふさいでしまった山羊の大群。

された。日本人トレkkerにはめったに会わない。中国や韓国の若者が元気だ。日に日に人家が減り、寒さが増す。5日目、マチャプチャレベースキャンプに到着。あんなに遠くに見えた山々が手の届きそうな近さにある。高度順応のためにそこで1泊。夜は天の川が輝いていた。

翌朝、アンナプルナベースキャンプに向けて歩く。呼吸を荒らげないようにていねいに足を運ぶ。そしてゴール。そこはアンナプルナ(豊穡の女神)やマ

チャプチャレ(魚の尾)の山々に360度囲まれた神聖なステージだった。崖の淵に立つと下は大きな氷河、足がすくむ。山肌から小石の落ちる音が静かな音楽のように聞こえる。青田浩さんが山を温かく見つめていた。私にはただ美しい壁としか見えないこの南壁を30年ほど前に単独登頂した記録をもつ青田さん、どんな想いだったのだろう。見上げれば真っ白な頂と澄み切った青い空。「ため息しか出ないね、母親の胎内にいるようだ、天国のようだね」、大郷先生の声がした。はっとして、私は2年前に旅立った親友と亡き父の写真を取り出した。「ほら着いたよ、見て。すごい景色でしょ?」と言いながら涙が溢れた。子どもが自立したら一緒に旅しようねと親友と約束して果たせなかった夢、旅行が大好きだった父にも見せたかった。私は幸運にもここに来ることができた。ありがとう、この身体、この命、家族や友人、この時代、地球、すべてのものに感謝したくなった。そして日本で一生懸命生きているあの人たちにも、子どもたちにもこの景色を見せてあげたい。ここで深呼吸してもらいたい、心からそう思った。白い雲がゆっくり浮かび、ピンクや薄い紫に色を変えていく。その色、キーンと冷えた空気の感触と匂い、すべてが身体に染みこんでいく。その夜、私たちはアンナプルナの女神の懷に包まれて、安心して眠りについた。

帰りはなぜか足早に山を降りた。途中ホットスプリング(温泉)に立ち寄った。ヒマラヤに来てまさか温泉に浸かれるとは!身も心も緩んだ。そしてその2日後、私たちは喧噪のカトマンズに戻った。



旅の終わりの憩いの一時。川原に湧出る温泉。ネパールでは「タトパニ(熱い水)」という。



一人で30~50kgを背負うポーター達。傾斜がきついためロバもだめ、たよりになるのは人力だけ。山の人々の生活の厳しさがわかります。

この旅で、私たちが何度も口にしたこと、それは一歩一歩前に進めば目的地にたどり着けるということだった。振り返れば、スポーツに無縁の私が最初にしたチャレンジは5年前のあぶらむから富山までのサイクリングだった。前の晩、緊張で一睡もできなかった私は、自転車で75キロ走れるんだという感覚を喜びをもって知った。ゴール

した後のとんかつとビールの格別な美味しさも。その後、野麦峠ウオークにも参加。そして今回アンナプルナ4,130mまで行くことができた。朝、「今日はあの山の尾根を越えて、谷の向こう側まで行くよ」と聞かされて、ええ？と思っても、一歩ずつ足を運べば夕方にはその場所にたどり着ける、その手応えが私の中に日々積み重なっていった。仲間と笑い話をしたり、ビスタリ(ゆっくり)と声をかけ合ったりして歩くと、手をつないでいるような安心感があった。反対に、前後に人が見えなくなると気がつくときとひとりで歩いていることもあった。ある時のことだ。清らかな小川を踏み越えたとき、大好きだった祖父のことを思い出した。「川の水で洗われた砂はほんとうにきれいなんだよ」と私の名前を付けてくれた祖父、よく裏山や川に遊びに連れて行ってくれた。その祖父が他界し、優しく母が家を出たのは10歳の夏だった。木漏れ日のなか、歩きながら懐かしい歌を口ずさんだら、様々なことが思い出され、私なりにがんばって歩いてきたんだという想いが湧き上がった。温かいものがたくさん溢れて何度も足元がぼやけた。大きな何かに包まれて、自分自身と対話した幸せなひとときだった。

ご一緒した皆さんは、さすが“あぶらむつながり”個性的な方々だった。「どんな荷物を持ってどう歩くか、何を美しいと思うのか、山を歩くことは生き方そのものだからね」と歩きながらおっしゃった青田さん。中島さんは73歳、その足取りに私もこんなふうに年を重ねたいと思わせていただいた。飛騨山岳会の杉本さんは山を堪能しながら、初心者の私にアドバイスしてくださった。今成さんの抜群のユーモアとパワフルさは忘れられない。同い年としてこれからもエールを送りたい。忘れられないといえばもう一つ、毎夜のいびきの轟音も…(長男が手渡してくれた耳栓の効果なし。大郷先生、本当のこと書いてすみません)。

東京に戻ると、みんなが安堵した笑顔で迎えてくれた。秋が深まり紅葉が始まっていた。これも素晴らしい自然の営みだと素直に見入ってしまう。そして、一歩ずつ歩けばあの天上の世界のような場所に立てるといふ宝物のような旅を経て、これから私はどこに向かって歩くのだろうという問いかけが何度も浮かぶ。まだ答えはみつからないけれど、これだけは言える。たくさんの命の連なりの果てに自分があることに心から感謝し、「ああ、歩き続けてよかった、生きてきてよかった」と思えるその風景に出会うために、その瞬間のために歩いていきたい。どんな山や空の景色が、どんな人との出会いが待っているのだろう、とワクワクしながら。

最後に現地ネパールで協力してくださった宮原巍さんをはじめとする皆さん、青田さん、大郷先生、無事を祈ってくださった方たち、素晴らしい旅をありがとうございました。旅によって心に刻まれた感動と感謝を杖にして、ゆっくりしっかり歩いていきたいと思っています。

『第2期通常総会 開催報告』

第2期通常総会を2014年3月に開催いたしました。当日は総会終了後、あぶらむの会代表の大郷博講演会も開催し、多くの方に参加いただきました。

心よりお礼申し上げます。

日 時：2014年3月8日(土) 14:30～15:30

場 所：立教学院チャペル会館(東京都豊島区西池袋3-34-1)

出席者：42名

総会次第：

- (1) 開会挨拶・役員紹介
- (2) 議長・議事録署名人・書記の指名
- (3) 定数の確認
- (4) 議案

- ・第2期活動報告
- ・第2期決算報告及び監査報告

<貸借対照表>

資産合計72,415,445円 (流動資産31,360,746円 固定資産41,054,699円)

負債合計 136,389円 (短期借入金136,389円)

正味財産72,279,056円 (うち当期正味財産増加額8,886,619円)

<収支内訳>

収入合計22,545,294円 (会費収入2,467,025円 寄付収入10,307,116円
研修収入6,070,455円 他)

支出合計13,658,675円 (減価償却費を除いた実質支出12,670,417円)

当期収支 8,886,619円 (減価償却費を除いた実質収支9,874,877円)

- ・第3期活動計画
- ・第3期予算(案)

<収支予算案>

収入合計14,800,000円 (会費収入2,500,000円 寄付収入5,000,000円
研修収入6,500,000円 他)

支出合計14,510,000円 (減価償却費を除いた実質支出13,510,000円)

ものづくり作業棟建設費用12,000,000円

当日の資料、議事録は、あぶらむの会ホームページに掲載しています。

<http://www.abram-no-kai.com/>

画面右メニュー "会員専用ページ" (パスワード: UTE48) にログインして、

画面右メニュー "2014年総会・講演会報告" をクリックしてください。

『第3期通常総会について』

今回、初めてあぶらむの里で総会を開催いたします。多くの方のご参加をお待ちしています。

2015年度会費納入いただいた会員各位に対して、1月下旬～2月上旬頃に第3期通常総会の正式案内状を郵送させていただきます。

日時：2015年3月21日(土) 15:00～(14:30～受付開始)

場所：あぶらむの里 諸魂庵(岐阜県高山市国府町宇津江 3225-1)

議案：第1号議案 第3期活動報告、決算報告、監査報告
第2号議案 第4期活動計画、予算案

第3期通常総会は「あぶらむの里」で開催されることとなりました。あぶらむの里を、また、あぶらむの現状を一人でも多くの会員の方々に直接見ていただきたく思ったからです。

3月14日、北陸新幹線が開業です。東京-富山2時間、富山-飛騨古川1時間10分、接続がよければ3時間半で東京圏と結ばれるようになりました。

どうぞ今から計画の中に加えていただければ嬉しく思います。

福田桂さんのイラスト画で見る あぶらむ夏季里山自然学校

小中学生を対象とした里山自然学校、高学年の子たちが低学年の子たちのお姉さんお兄さん役、参加者同士がお互い助け合っていく自然学校に。長年願ってきたことがやっとそれらしくなってきた今夏の里山自然学校でした。助け合い、支え合っていく喜びを知った子ども達は一段とのびのびと。そんな子ども達の姿とあぶらむ里山自然学校の様子を、福田桂さんのイラスト画でお伝えします。

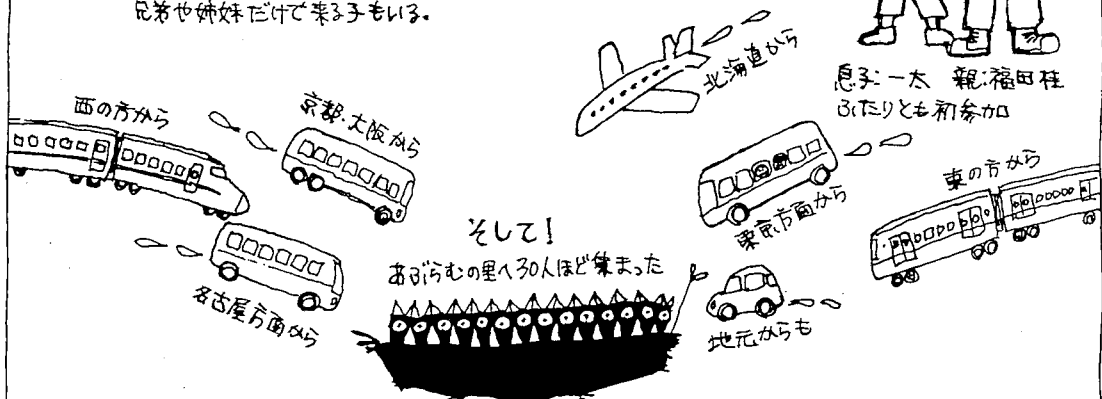
あぶらむ自然学校体験記

うわさに聞いたことがあっても、体験をしたことがなかった夏の自然学校。今年スタッフとしてお誘いを受けたことをきっかけに、小学校2年生の息子と一緒に参加することに。

子ども達もスタッフも、色々な場所から集めてくる。近くに住むスタッフと合流しつつ、兄弟や姉妹だけで来る子もいる。



息子一太 親・福田 柱
ぶたりとも初参加



そして！
あぶらむの里へ30人ほど集まった



大おねえさまがた 8人

ごはん作りや洗濯など、宿での暮らしを支える仕事をしてくださる姉様がた。大変お世話になりました。ありがとうございました!!

おっちゃんたち 5人

力仕事や遠出がメインの男衆。寝るとき以外は大体子どもたちと一緒にいる。僕はここでお手伝い。

こどもたち (小1から中2まで) 16人

年齢、性別、住んでいるところ、様々な子ども達が集まる。初参加の子も、経験のある子も、親から離れて1週間を過ごす。

お兄さんお姉さんリーダー 5人

期間中、文字通り子ども達と寝食を共にする。家族から離れて不安になる子もいる中、最後まで子どもたちの支えになってくれた。感謝!



メンバーがそろった後は、話の運びで輪になって開校式。自己紹介や、楽しみにしていることなどを話す。

夜寝るときは、5つのグループに分かれ、各グループにリーダーがひとりづつ付く。



名だも
リーダーが作ったよ

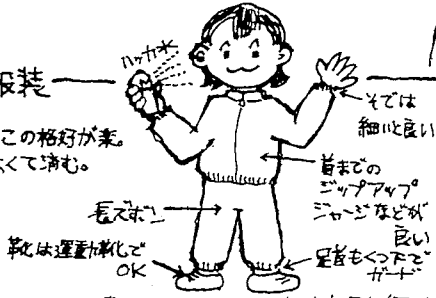
次ページ
今年の自然学校を紹介!

2014 あぶらむ夏の里山自然学校 ピラママップ

自然学校のプログラムは天候の許す限り野外活動が中心。びっくりするほど奥が深いあぶらむの里。敷地の中で様々な経験ができるようになっている。火と水と土、木と草と虫と畑。ちょっと離れれば田んぼがあり、足を伸ばせば3000m級の山にも、飛び込んで泳げる川にも行ける。何てせいたく！

山あそびの 基本の服装

変るときもこの格好が楽。荷物も少なくて済む。



水のまわいなあぶらむでは、朝夕にブヨがある。刺されると何ヶ月もかユミがツブク。避ける方法は簡単。肌を出さないこと。我が親子はここが甘めたので、12月になった今でもカユイ...

七日小屋

七日で建ったという伝説があるあぶらむで一番古い小屋。

ツリーハウス

修理中。泊まれる年も。

バーベQ場

今年、比較的長い時間を過ごしたのがこの場所。期間中は雨がちな天気だったため、ここの大屋根に逃げられた。



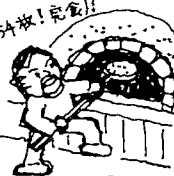
バーベQテーブル

毎食ここにスタッフと子ども達が集まり、「いただきます」をする。

2つのピザ釜

60本のマキで7時間かけて予熱。ピザ生地は子ども達が作った。焼き職人は大塚さん。

今年54枚！完成！！



アースオープン

焼いた石とアルミホイルに包んだ食材を一緒に土に埋め、予熱で調理する。熱が芯まで通っておいしい。



ドラムコンロ

遠火の強火が実現できる。ドラム缶を丸ごと使ったコンロ。厚切肉や大なべ料理に。



ワイルド！

ミツバチの時間

あぶらむの夏の各所にミツバチの巣箱がある。採取した蜜をしゃぶると甘くておいしい。今年は蜜蝋でロウソク作りを体験した。



ロウソクの形にちとがらが出る？
せつがちな人はせつがちな形に。
のんびりさんはのんびりした形に。

山の上のティピー

今年は泊まれなかったが宿泊可。

ヨット池

池には贈り物のニジマスが！子ども達は小雨の中、11匹を釣り上げ喉のおかずに。

新木工所

まだ中は空。新しい木の香と嗅ぐ。

木工所

入り口に今年の子も達が描いた大きな絵がかかっている。いらした際には足を運んでみては？各札ペンダントやロウソクの台もスタッフがここで作った。

麻生土の山

五右衛門風呂

じんわり沸いたお風呂は最高に気持ちが良い。ぜひ火を焚くところから体験と！

バーベQ場

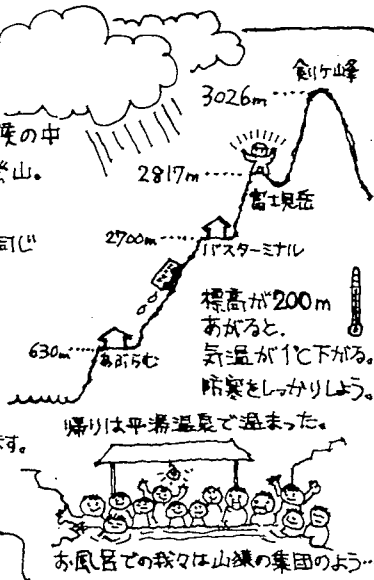
あぶらむ畑

里の前の川でも遊べる。今年はお祭り。今年はお祭り。

山へ行く日

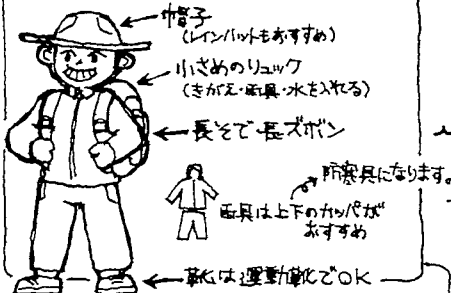
目指したのは愛媛県。あいにくの濃霧と
強風で最高峰の剣ヶ峰はあきらめる。

隣の富士見岳へ登頂。真夏ののに寒いほどの天候の中
何人が前の人の姿が見えなくなるような驟の登山。



登山の服装

里での山あそびの服装と基本は同じ

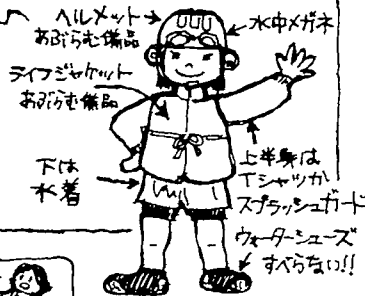


川へ行く日

すごろく川という美しい川。この日はおひさまに恵まれ、水あそびを堪能できた。

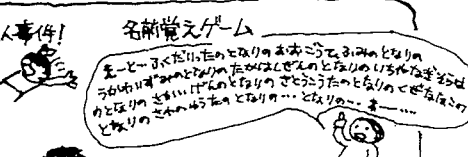
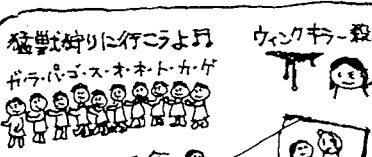
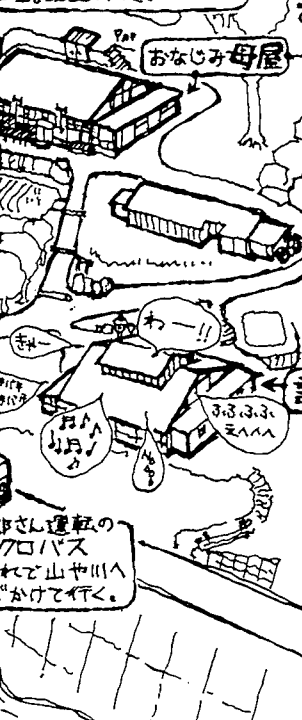
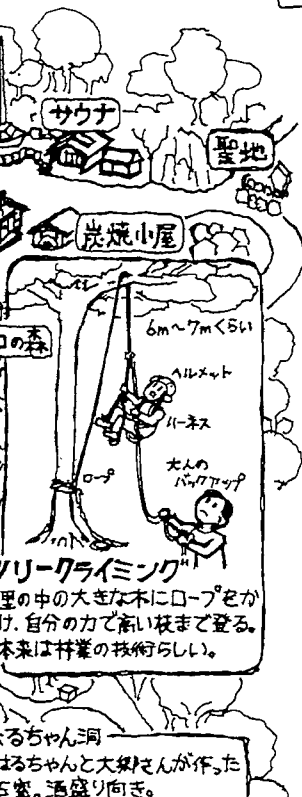
大きな岩がある場所では根性だめしの飛び込みが結構。こころの7m

水あそびの服装



おせんたくもの祭り

毎日夕刻に母屋の広間のテーブルに
かわいた洗濯物が並び、必ず名前を書いてみよう。



天候に恵まれなかったにもかかわらず、のびのびと印象深い時間を過ごすことができた。楽しかった。子どもにも大人にもおすすめできる、スナギな時間。
来年も行きます!!

2014年12月4日

2014年 あぶらむこの一年

- 1月・久しぶりに雪のお正月。2日から屋根の雪下ろし。
・ものづくり作業棟の木材切り出し。直径60～70cmの木4本切り倒し製材所へ
・廃業した建築会社の機械、材料引き取り
- 2月・17人目の少年審判。よく自分と向き合い、またよくあぶらむを助けてくれた。長年音信不通だった父親の元へ帰って行く。
・毎日のように屋根の雪下ろし。今年の雪はこれまでで一番重い。
・新作業棟、3月に建築工事開始と決まる。
- 3月・1日 作業棟の位置決め、チョウハリかかる。
・4日 ウーハーのジョシユア君来里。一年間はいたいという。
・8日 第2期あぶらむの会総会。於立教大学、引き続き大郷の講演会。
・11～21日 ペルー インカ遺跡の旅 参加者9名
・24日 新作業棟 棟上げ
・29日 春を迎えることのできた喜び“春一番の会”
- 4月・あぶらむの宿一部改装
・日本ミツバチ越冬に失敗、全滅。
・18～21日 第21回さくら道国際ネーチャーラン海外ランナー20名参加
・24日 18人目の家裁少年受け入れ
・田起こし、肥料まき等、田植え準備開始
- 5月・9日 JA 看護専門学校の宿泊研修会
・12日 田の代かき開始
・24日 田植え、東京より11名の体験希望者を得てにぎやかな田植えとなる。
・飛騨全域にマイマイガの幼虫多量発生、あぶらむの里も食害が出る。
※（5月17日予定だった佐藤初女さんの講演会、諸般の理由で中止となりました。）
- 6月・1日 真夏のような暑さ、岐阜で36℃。夏のプログラム準備開始。
・3日 家裁少年の中間審判
・20日～ 南山大学人間関係学科ゼミ合宿
・新作業棟 外壁張り終了、床張り開始（これらは自分達の仕事）
- 7月・5日 沖縄聖コルコ保育園にて講演、愛楽園訪問。強烈な台風に追われる。
・7日 あぶらむの会理事会（東京にて）
・16日 18人目の家裁少年補導委託打切り
・21日 東海地方梅雨明け
- 8月・1日 岐阜生と死を考える会、立教 PRC 合宿
・4日 あぶらむ自然学校開校式、9日までの間毎日のように雨
・16日 台風の影響で大雨となる。新作業棟のガケ土砂崩れとなり建物まで1mのところまでけずり取られる。広島で大きな土砂災害発生。
・18日 芦屋聖マルコ教会学校キャンプ
・新作業棟のガケ崩れ、自力で修復することに決める。8月一杯かかる。移動土砂約

500トン

- 9月
 - ・新作業棟内壁張り開始
 - ・10～14日 第3回野麦峠越えウォーキング110km、参加者5名
 - ・高山日赤病院新入看護師宿泊研修会
 - ・20日 あぶらむの里内で松タケ4本ゲット!
 - ・26日 稲刈り
 - ・27日 木曾の御嶽山爆発、多数の犠牲者が出る
- 10月
 - ・7日 薪ストーブたく
 - ・10日 台風19号接近前に脱穀(45袋やや減収)
 - ・11日 WAYNO アンデスの風コンサート
 - ・12日 位山ウォーキング
 - ・22日 高山日赤病院にて病理解剖献体者追悼記念会にて記念講演
 - ・30日 初霜おりる
- 11月
 - ・4～19日 ネパール アンナプルナ内院トレッキング(参加者6名)
 - ・半月遅れで越冬準備開始
 - ・クマの出没多数。マイマイガの食害が影響しているとのこと。
- 12月
 - ・あぶらむ通信発行
 - ・9日 あぶらむの会理事会(土地購入の件)
 - ・23日 クリスマス会

2015年 こんなこと(行事予定)

- 1月・10～12日 あぶらむ雪祭り(沖縄からの参加あり)
- 2月・雪上ウォーキング、冬の里山体験随時
- 3月・14日 春一番の会
 - ・21日 第3期あぶらむ総会 於あぶらむの里
 - ・26日 第14回子どもから大人までのネパールの旅
- 5月・22日 田植え
 - ・23日 2代目津軽三味線高橋竹山野休みコンサート
- 6月・スペイン サンチャゴ・デ・コンポステーラ巡礼の旅800km 前半(予定)
- 7月・18～21日 野麦峠旧道ウォーキングと史跡を訪ねて(歩行距離約8km)
 - ・あぶらむ里山生活夏季短期留学(約3週間)
- 8月・4～9日 あぶらむ里山自然学校
 - ・22日 第8回桂歌之介落語会
- 9月・サンチャゴ・デ・コンポステーラ巡礼の旅後半(予定)
 - ・26日 稲刈り(予定)
- 10月・10日 第8回WAYNO アンデスの風コンサート
 - ・11日 里山ウォーキング(場所未定)

ⅢⅢⅢ 寄付者一覧（'13年12月14日～'14年12月13日）敬称略 ⅢⅢⅢⅢⅢⅢⅢⅢⅢⅢⅢⅢ

相川喜久枝／愛知聖ルカ教会／芦屋聖マルコ教会／安藤隆年／五十嵐正司／池崎純一／池田正毅／市川聖マリア教会／一柳典利・百／伊藤浩子／伊藤幸史／井本正樹／岩崎静子／学校法人聖ヨセフ学園岩田幼稚園／鷗川久・貴子／鷗川雅行／江崎忠男／大西修／大場弘子／大橋雅子／岡田賛三／岡登信義／沖縄聖マルコ保育園／奥康功／形部賢／片山吉章／加藤寛／金子美弥子／株式会社アリミノ／神原一二美／河合由美子／岸村信治／木田みな子／北山和民／吉川仁／木ノ内三代治・伸子／木村富昭／金城盛弘／窪田暁子／窪寺俊之／熊沢洋子／倉石昇／小島正則・幸子／財満研三郎・由美子／坂尾新一／坂本吉弘／作田真知子／澤野正裕・弥生／シオン幼稚園／静谷英夫／篠田泰之／忍昭弘／篠宮慶次／島文子／島袋洋子／清水秀明／税理士法人ジャパンマネージメントサービス／新開春樹／鈴木武次／須田肇／東京セントポールライオンズクラブ／高沢孝子／高島順太郎／高瀬留美／高柳真／竹田純郎・ひろ子／竹村真紀／俵里英子／千葉復活教会／中部学院大学宗教委員会／辻雅彦／寺田信一／外村民彦／富山聖マリア教会／中島務／長縄泰子／中村啓子／中村力・英子／日本聖公会ナザレ修女会／南山大学人間関係ゼミ／新家恵子／萩尾信也・出穂／長谷川秀司／長谷川俊夫／畑井正春／浜中好美／原川恭一／比屋根るり子／福岡女学院中学高等学校／福田桂・亜矢子／藤井和彦／藤井真喜子／古川齊／古沢伸雄／星野一朗／星野八千代／前田晃伸・容子／松居勲／三沢悠子／宮古聖ヤコブ教会／宮里順子／森毅／森紀且／森松長明／八木克道／矢崎ふき子／安田昭彦・香恵／山下明／山田益男／湯田啓一／横浜聖クリストファー教会／吉羽真治／与那嶺厚・あさ子／レーマン幸子

ⅢⅢⅢ 物品寄付者一覧（'13年12月14日～'14年12月13日）敬称略 ⅢⅢⅢⅢⅢⅢⅢⅢⅢⅢⅢⅢ

田尾兵二／柴原薫／あんしんプランニング中村洋

ⅢⅢⅢ ガヴィス基金（'13年12月14日～'14年12月13日）敬称略 ⅢⅢⅢⅢⅢⅢⅢⅢⅢⅢⅢⅢ

上田敏明／竹村真紀

ⅢⅢⅢ 2014年会費納入者一覧（'13年12月12日～'14年12月13日）敬称略

相澤牧人／赤井充也／赤松道子／秋月慎直・綾／朝比奈誼／朝比奈時子／味岡努／味岡敏江／穴井悦子／荒井優仁・彩月／池淵透・真理子／井沢夫佐子／石井紫織／一柳典利・百／伊藤浩子／伊藤幸史／伊東日出子／伊藤文雄・宣子／稲葉世紀子／猪野愈／今関公雄／入野豊／岩坪哲哉／岩坪瑞枝／岩間光雄／上田敏明／上村誠・洋子／鷗川久・貴子／梅沢雪子／江洲良秀／大木聖／大城恵子／大杉匡弘／太田喜元・昌子／大橋雅子／大平和子／大房健樹・和子／大嶺佐智子／大八木米子／大山直子／岡登信義／岡野峻／尾崎和廣／小野裕・伸子／小野田誠次・恵子／笠井正志／笠原雅子／片岡義博／片桐多恵子／嘉手苺米子／加藤正／金子眞／加納美津子／唐木田麻起子／河合由美子／川上詩朗・美砂／川上玲子／川口弘二／川口暁子／河田健二／岸井孝司／木島出／岸元忠義・静江／北昌子／久世

治靖／倉石昇／倉辻明男／倉持昌弘／栗山盛雄／栗山洋子／黒田則子／小池直子／小泉恵子／小林信夫・加代／小林賢三／小堀浩子／小松純一／近藤高史／斎田美代子／斉藤美登里／斉藤寛明／酒井厚子／櫻井智則／笹岡淳也・由紀子／佐々木国夫／佐藤耕一／佐藤純／佐藤哲典／佐藤敏子／佐藤芳子／澤野弥生／三瓶富子／塩田純子／篠田泰之／篠宮慶次／柴原薫／渋澤一郎／渋谷真理／島文子／島袋洋子／清水幸平／清水靖夫／志村弘子／城下彰／下田英一／新堂玲子／菅原勝美／菅原美穂子／杉村進／杉村良平・和子／鈴木信子／鈴木康邦／鈴木知子／鈴木千絵／鈴木正士・裕子／鈴木康仁／聖母訪問会／仙敷正俊／染谷孝章／高沢孝子／高瀬留美／高田建夫／高野永／高橋保／高濱友理江／高柳真／滝谷絃一・美佐保／田口清吾・はるみ／竹内元章／竹中浩／武原正明／竹村真紀／田中幸治／田中孝子／棚橋忍／棚橋美江／田部博文／俵里英子／丹安紀子／筑井宏子／佃寿子／寺谷恵美子／桃原松五郎／時高照子／外村民彦／泊哲次／富安眞理／友野博樹・和子／豊永泰子／直井雅子／中沢隆／中台哲夫／長縄年延／長野純吉／中村洋・久美子／長谷幸雄／中山美世子／新倉俊吾・久乃／西垣正子／西川照子／西口晃／西口喜久枝／西村斐佐代／西村正和／根本利子／野崎久子／野田修治・洋子／野田修助・和子／萩尾信也／萩尾出穂／萩谷長生・睦子／土師晴子／羽柴加寿代／長谷川秀司／長谷川牧子／畑井正春／畑中幸次郎／畑野榮一／畑野寿子／比嘉良脩／日根野慶一／日野忠市／福田桂／福田亜矢子／福田一太／藤井誠・ひろ子／藤本隆／古市進／古川秀昭・昭子／古澤昭夫／星野一朗／星野直子／千葉恵子／前田眞智子／前田晃伸／前田容子／前田晃／前田広世／松井尚子／松居勲／松岡龍哉／松田捷朗／丸山千早／三栖香織／溝際庸介／三原エイ／三原一男・京子／宮崎秀貴／宮田洋子／宮脇加代子／武藤六治／宗像千代子／室岡恵／森幸一／森田喜之／森本晴生／八木克道／矢後和彦・正子／保井孝・亮／矢野裕史／山内寿美子／山口泰生／山崎美貴子／山田益男／山本眞／吉植よし子／吉田太／吉野康／吉野美智子／吉羽真治／若園絃志

||||| 新規会員（'13年12月14日～'14年12月13日）敬称略 |||

秋月慎直・彩／池淵透・真理子／井沢夫佐子／石井紫織／稲葉世紀子／入野豊／小堀浩子／近藤高史／鈴木千絵／高沢孝子／高野永／萩尾信也／萩尾出穂／三栖香織／森幸一

《「あぶらむの会」について》

「あぶらむの会」は旧約聖書創世記に出てくる、信仰の父アブラハムの旅立ちの前の名前、「アブラム」に由来しています。それによれば、彼はその内的必然性故に、安住の地を離れて「行く先知らずして」旅立ちました。全てに対してあまりにも安定を求める今日、私たちは旅としての人生に臆病になり、旅に必要な能力を欠いているように思われます。

「あぶらむの会」は、自己の人生に果敢に挑戦し、人生の良き旅人を育てるため、それに必要な訓練や出会いの場を提供してゆくことを目的としています。

2015年 第14回子どもから大人までのネパールの旅

静寂なジャングルとそこにすむ野生動物との出会い、眼前にせまる神々しいまでのヒマラヤの山々。ネパールは心の安らぎと感動で一杯です。子どもから大人まで参加者全員で協力しあっての旅です。

オジーさんオバーさん、お孫さんと一緒に旅、生涯の良き思い出となります。

期間 2015年3月26日～4月6日（12日間）

お問い合わせはあぶらむの会へ

あぶらむ里山生活夏季短期留学

生きるうえで大切な智慧がたくさん満ちている里山生活。これからの時代を背負っていくやがて大人になる子ども達、一緒に生活してみませんか。

期間 2015年7月末から3週間ほど

対象 小学校高学年～中学生

尚、留学生はこの期間に行われる里山自然学校に自動的に参加となります。
お問い合わせはあぶらむの会へ

野麦峠旧道ウォーキングと史跡を訪ねて

期間 2015年7月18日（土）～20日（日・祭日）

※歩く距離は1日目約2km（登り）、2日目約6km（下り）の計8kmです。

その昔、女工さん達が歩いた道です。また、初日は宿泊営業を中止した「お助け小屋」で特別宿泊致します。眼前の乗鞍岳が圧巻です。

また、小説、映画「あゝ野麦峠」の主人公政井ミネさんのお墓や女工さんゆかりの古川の街などをご案内します。